

【草花の部屋】

ビアホップ (ベンケイソウ科セダム属 Sedum burrito)

和名：シンタマツヅリ (新玉綴) **別名**：ビールポップ、セダム・ブリット

英名：Burrito burros

ユキノシタ目 多肉植物・多年草

原産地：メキシコ

花言葉：静寂

花色：桃



← ↓ 写真-1、2 ビアホップ
撮影日：2019年2月27日
撮影場所：シントラ
(ポルトガル)にて
撮影者：M さん



← 写真-3 ビアホップの小枝
撮影日：2019年2月27日
撮影場所：シントラ
(ポルトガル)にて
撮影者：M さん

リスボン(ポルトガル)近くの大西洋岸にあるロカ岬を訪れる途中、観光と昼食を兼ねて訪れた世界遺産の街シントラのレストランで見かけました。一見、ブドウかと思いましたが、多肉植物の仲間でした。帰国後、調べて見るとビアホップ(シンタマツヅリ)でした。

ビアホップは、タマツヅリ(玉綴：S. morganianum)の変種から誕生した品種だそうで、多肉植物の中でもよく栽培され、寄せ植えやインテリアグリーンとして活躍しているそうです。

葉は紡錘形の多肉質で粉白緑色です。タマツヅリ(玉綴：S. morganianum)に似ていますが、タマツヅリが葉の先端が尖っていますが、本種は丸みがあり、葉が落ちにくいのが特徴だそうです。葉が密につくので、房状のような姿になり、茎は基部のみ分枝して長く伸び、下に垂れます。秋に淡桃色の小さな花が咲くそうです。

強い光を好む植物で、なるべく明るい場所に置くと良いそうですが、夏はやや半日陰が良いそうです。

ビアホップの名前は、ビールの原料として用いられるホップの毬花とよく似ているからとか葉の形がビールの泡のように見えるからとかいわれているそうです。ビールホップの愛称で出回っている場合もあるそうです。

<ちょっと一言>

＊ロカ岬：ユーラシア大陸最西端の岬。

ここには、ポルトガルの詩人ルイス・デ・カモンイスの叙事詩『ウズ・ルジアダス』第3詩20節の一節「ここに地終わり海始まる (Onde a terra se acaba e o mar começa)」を刻んだ石碑が立っています。

→ 写真-4 ルイス・デ・カモンイスの碑

撮影日：2019年2月27日

撮影場所：ロカ岬(ポルトガル)にて

撮影者：M さん

